

令和6年度 果樹の生育情報 No.6

令和6年9月2日
農業経営課

1 気象概況

7月と8月の気温は著しく高くなっています。

< 7月の平均気温 >

岐阜市アメダス	29.1℃ (平年比+2.1℃)
恵那市アメダス	26.0℃ (平年比+1.4℃)
高山市アメダス	24.8℃ (平年比+1.3℃)

< 8月の平均気温 >

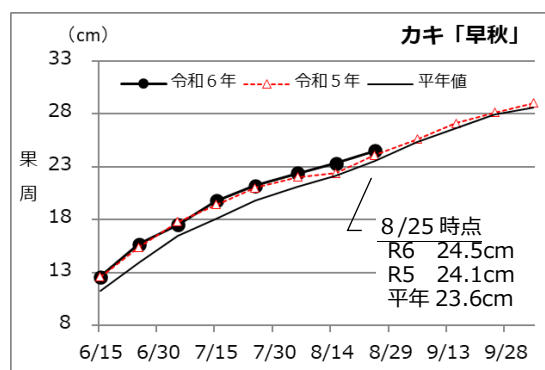
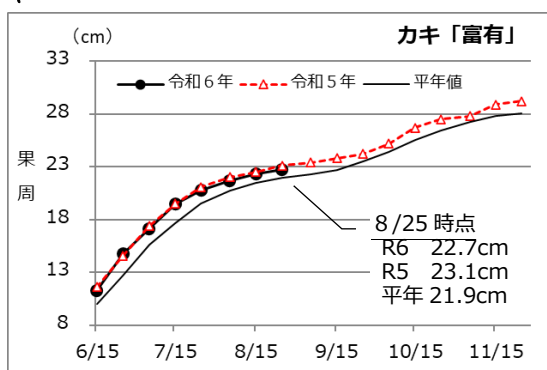
30.2℃ (平年比+1.9℃)
27.7℃ (平年比+2.1℃)
26.3℃ (平年比+1.9℃)

2 果実の生育状況

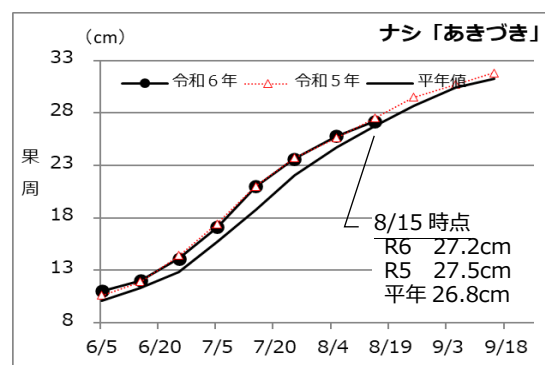
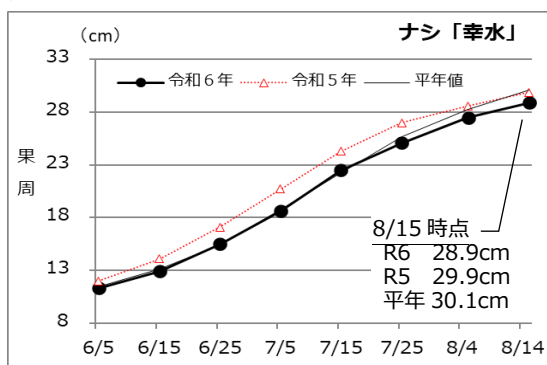
(1) 果実肥大

主要果樹の果実肥大は、カキ、モモは昨年より小さく平年より大きいですが、ナシ、リンゴは昨年、平年より小さくなっています。

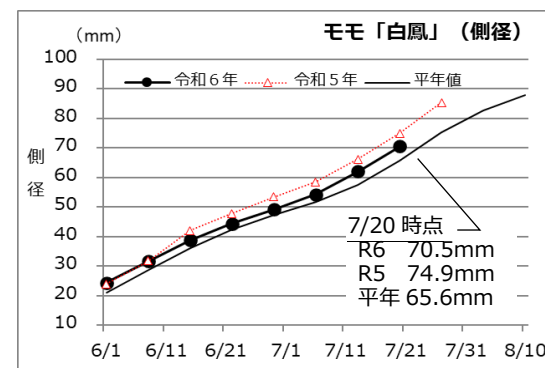
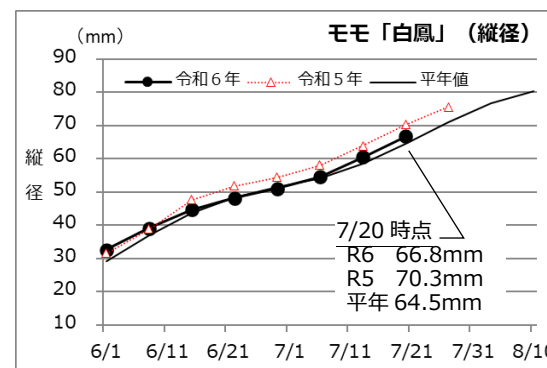
○カキ



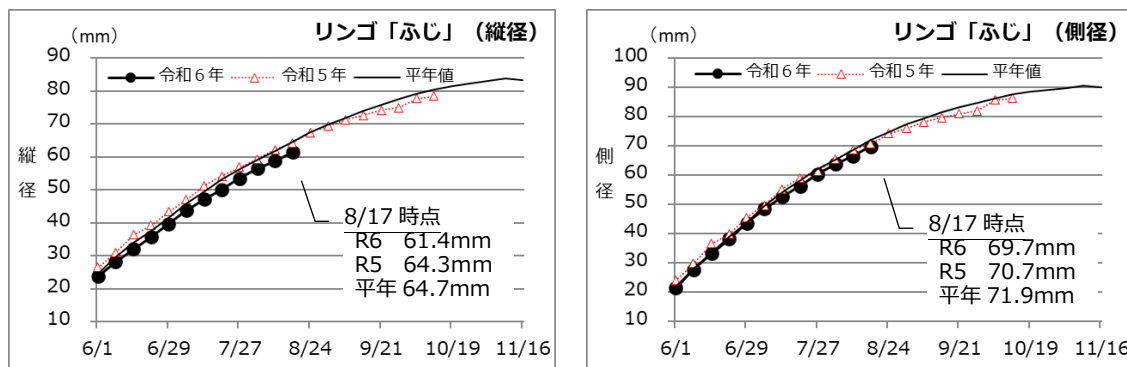
○ナシ



○モモ



○リンゴ



※カキ、ナシ：農業技術センター（岐阜市）、モモ、リンゴ：中山間農業研究所本所（飛騨市）

(2) カキの着色推移

カキの着色は「早秋」は昨年並みで平年よりやや早く、「富有」は平年よりやや遅れています。

表1 一品種別の着色状況（カラーチャート値、農業技術センター、8/25 調査）

品種名	R6	R5	R4	R3	R2	R1	H30	H29	H28	H27	平年
早秋	1.9	1.9	1.8	2.2	1.3	1.1	1.5	1.3	1.7	1.5	1.6
富有	0.2	0.4	0.3	0.4	0.1	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.3

※農業技術センター（岐阜市）

3 栽培上の留意点

7月下旬以降、県内主要果樹のナシ、モモの収穫が始まりました。開花期以降、高温で推移したため、収穫期は例年になく前進化傾向でしたが、全般的に小玉傾向となりました。今後は、クリ、リンゴ、カキの収穫が始まります。8月が異常な高温少雨で経過したため、収穫期の遅れ、小玉化等が懸念されます。

果樹は、次年度に備え貯蔵養分を蓄積する重要な時期となっています。この時期の樹体の損傷や病害の発生は、次年度の作柄にも大きく影響します。まだまだ台風シーズンが続くため、今後の台風や降雨に備え、病害の発生に十分注意し、対策を図りましょう。

(1) 病虫害防除

- ・9月以降は、山林のスギ、ヒノキ球果の劣化により、果樹カメムシ類が果樹園に飛来する可能性があります。とくに本年は果樹カメムシ新世代虫が多くなっています。飛来状況に応じて防除を実施しましょう。
- ・秋期は次年度の病害発生密度を下げるための重要な防除時期です。秋期の台風に伴う強風や降雨による樹体、枝葉、果実の損傷、土壌の跳ね上がり等は病害拡大の原因となります。地域の防除暦に準じ、秋期防除を徹底しましょう。

(2) その他

○かん水

- ・9月以降も気温が高く、蒸散量が多い状況が続きます。樹勢維持、果実肥大、次年度の収量確保のためには、土壌水分の維持が重要です。今後も定期的にかん水を実施しましょう。

○礼肥

- ・収穫が終了した樹種では翌年の生長に必要な貯蔵養分を蓄積させることを目的に、礼肥（年間窒素成分量の20～30%目安）を施用しましょう。ただし、着果量が少ない園、樹勢が強い園等は施用量に注意しましょう（やり過ぎないこと）。